

変わる人や物の流れ



目次

口 絵

刊行のことば

監修のことば

まえがき

凡 例

上田市誌刊行会長 上田市長 母袋 創一
東京大学教授 文学博士 佐藤 信

第一章 拡大する商業

第一節 信州の横浜

一 生糸・織物でにぎわう上田

巳年騒動からの復興 明治天皇巡行当時の上田 上田から横浜へ運ばれた生糸

品質を高める上田の生糸 養蚕農家と繭の売買 上田の繊維商人

二 小売店の動き

明治初期の商店街 商店宣伝の工夫 士族の商法と街のようす 舶来品の販売

三 銀行が集まる上田

蚕糸業の盛んな上田小県地方 第十九国立銀行の開業 私立銀行と銀行類似会社 銀行の発生形態

庶民金融 小規模な商工業者の金融

四	上田商人の動き……………	12
	上田の商業を論ずる重田 生産都市から消費都市へ 牧内元太郎の論説 販売を競う上田の商人	
第二節	新しい流通へ……………	16
一	上田停車場と新しい町……………	16
	松尾町の形成 人や物の流れの変化 天神町の形成	
二	鉄道開通で変わったこと……………	17
	増加する上田駅の貨物の発着量 多様な業種で活躍する商人たち 繁華街は北から南へ 旧繁華街の危機感とえびす講 中南信方面も上田の商圏に	
三	商工会議所の発足と活動……………	19
	上田商業会議所の誕生 初代の正副会頭 国・県に対する意見や要望 上田蚕糸専門学校の誘致 営業税法の改正と廃止運動	
四	繭糸 ^{けんし} 市場と倉庫……………	21
	繭糸市場の設立 上田小県地方の繭糸の取引高 国立第十九銀行と製糸業 製糸金融と倉庫会社の設立	
第三節	養蚕景気の中で……………	23
一	篠ノ井線の開通と上田の商圏……………	23
	運送業者への影響 旅館や飲食店への影響と解決策 一般商工業者への影響 商工業の不振と打開策の提言 製糸業等の工業振興 小県蚕業学校の学科増設の提案	
二	養蚕景気と小売業……………	25
	にぎわう上田のえびす講 購買力が増え活気ある町へ 上田駅の旅客数の増加 明るくなった商店街 道路の整備と市街地の発展	
三	産業組合と商圏擁護運動……………	28

産業組合の生い立ちと発達	産業組合に対する対策	高まる商権擁護意識
全日本商権擁護連盟の設立	長野県支部上小分会の活動	商工業者の悲劇

第四節 大不況から戦時経済へ……………31

一 恐慌下の金融……………31

押し寄せる不況の波 合併によって力を持つ銀行 農村金融の中心産業組合

信濃銀行支払い停止の影響 八十二銀行の発足

二 大不況の中の商戦……………34

上田商人の心意気 産業組合と熾烈な販売競争^{しれつ} 商工業者の訴えと商人の努力

三 北上州（群馬県西北部）に広がる商圏……………37

結びつきの深い両地域 商権拡大の期待 鳥居峠の改修と往来の増加 省営バスの運行と鉄道への夢

四 上田飛行場への期待……………40

飛行場の建設工事 祝賀式・開場式のにぎわい 空の都への夢そして終戦

五 物資統制と配給制……………42

市民の借金と景気回復の兆し^{きざ} 次々に行われる経済統制 衣料・食料品の配給制度

米の配給制度と統制 衣料の切符制 商店の販売努力

六 小売店舗の整備……………45

企業整備令 転廃業の苦悩 豆腐屋さんの配給担当 終戦間近の商店

第五節 敗戦の中から……………48

一 配給制から自由販売へ……………48

敗戦直後の町の姿 配給制と生活必需品の不足 戦後のインフレと商店街
商店街に人出戻る 自由販売時代の到来

二	復活する商店街……………	51
	二十一年当時の商業者の数	
	商店が増えて活気づく商店街	
	原町の道路拡張とバスの運行	
	原町から上田駅までの舗装道路	
	上田駅前の区画整備	
	えびす講復活	
	上田桜祭りと納涼煙火大会	
	七夕飾りコンクール	
三	商工業の組織……………	53
	上田商工会議所の再発足	
	新商工会議所法の制定と改正	
	経営者協会の上田支部設立	
	商業に関する諸団体の誕生	
	リンクストア協同組合の設立	
	商店街協同組合の誕生	
第六節	経済成長前半（昭和三十年―四十年代）の商業……………	56
一	商店街の再生……………	56
	戦後を克服し新しい発展へ	
	道路の整備	
	商業地への復興	
	上田デパート	
二	デパートの出現……………	57
	デパート出店に向けての調整	
	ほていやの登場	
	開店でにぎわうデパート	
	ショッピング・センターの完成	
	店舗の近代化へ	
三	活発な小売業と卸業……………	59
	スーパー設置の背景	
	スーパーの開店	
	川辺町の動き	
	小売店の変化	
	卸業の共同化と卸団地の造成	
第七節	経済成長後半からバブル崩壊（昭和五十年―平成十年代）の商業……………	62
一	大型店の展開……………	62
	大量販売店の足音	
	大型スーパー進出の決定	
	大型店の進出	
	大型店の出店の方法	
二	小売店の動き……………	65

海野町商店街振興組合 大型店と商店街 外商へ向かう商店 生活圏が上田まで広がる北上州
上田市婦恋区

三 新しい商業の形 69

第二種大型スーパーの進出 進出の規制と地元商店街 出店が続く第一種大型店

便利さを追求するコンビニ 上田市にはじめてのコンビニ

四 大型店の撤退と中心商店街 72

ユニーの撤退とほていやの移転 商店街の大型店対策 中心街の変遷

五 レジャー産業 76

娯楽の時代 上田市のレジャー産業 映画館の浮き沈み 娯楽の選択

六 魅力ある街づくり 77

商圈調査報告書にみる商圈変化 通行量の調査 インターネットによる買い物

人の流れを呼び戻す街づくり 個性あふれる店づくり

第二章 変貌する交通

第一節 近代化へ向けて 85

一 道路事情 85

明治初期の道路 明治政府の道路整備 荷物運搬の変遷 車事情

二 明治天皇行幸 88

巡幸に備えて道路整備 巡幸のようす

三 第二線路の開通 90

開通までの経過 第二線路開削の変遷 道路建設のようす 道路開削後の交通の変化

第二節 信越線の開通

..... 93

一 信越線の全通

..... 93

信越鉄道会社の設立運動と解散

幻の中山道線

信越線の開通

二 上田駅の開業

..... 94

上田駅の開業まで

上田駅の開業

駅開業後のようす

三 大屋駅の開業

..... 96

大屋駅開業の経過

第三節 新しい展開

..... 97

一 篠ノ井線の開通

..... 97

篠ノ井線の開通

篠ノ井線開通の影響

二線路運輸の衰退

減少する乗降客と貨物

第二の維新に遭遇

二 自動車の登場

..... 100

乗合自動車

私鉄との競争

買収合併の乗合自動車業界

貨物自動車営業者の出現

貨物自動車の急増

道路損傷負担金と道路整備

自動車免許

三 北塩尻駅の新設

..... 104

新停車場設置に向けて

停車場位置問題

北塩尻駅の開業

四 私鉄の敷設

..... 105

上田を中心に広がる私鉄網

丸子鉄道株式会社の設立

丸子鉄道の敷設

上田温泉電軌株式会社の設立

青木線

別所線

西丸子線

北東線の敷設運動

難産だった北東線

第四節 大不況から戦時体制へ	108
----------------	-----

一 車両の国産化	108
----------	-----

輸入が途絶えて

二 ガソリンの一滴は血の一滴	109
----------------	-----

ガソリンの自給率5%

三 ガソリン車から代燃車へ	110
---------------	-----

代燃車の奨励 代燃車の普及

四 運送会社の統合	111
-----------	-----

上小貨物株式会社の設立 千曲自動車設立の経過 上田丸子電鉄の設立と経過 青木線の廃止

第五節 戦後の動き	113
-----------	-----

一 汽車に殺到する客	113
------------	-----

戦後の交通ルールづくりへ それでも汽車が動いている 信越線では 私鉄の状況

二 広がるバス路線	115
-----------	-----

敗戦直後の混乱 バス事業の発展

三 敗戦とトラック輸送	116
-------------	-----

敗戦直後のトラック輸送 統合企業体の解体 道路運送法の制定 特需景気による躍進

進む道路整備

第六節 経済成長の中で	120
-------------	-----

一 急増する自家用車と道路整備	120
-----------------	-----

一 市民から見た上田市の交通 自家用車の伸びと交通量 主要道路の整備

三才山トンネルと新和田トンネル	進む道路舗装	千曲川に新しい橋を
自転車と歩行者の減少		
二 鉄道輸送	123	
信越線の電化と複線化	鉄道の乗降客と物資の移動	
三 伸びるトラックとバス輸送	125	
輸送事業の拡大	大手資本の進出	昭和三十年代はバスの時代
		私鉄の廃止
第七節 高速交通時代	128	
一 交通体系の再構築	128	
中央自動車道と関越自動車道	長野新幹線の開業	上田駅周辺の整備
二 都市基本計画による交通体系の整備	131	
第三セクターしなの鉄道		
上小三〇交通圏		
三 高度化するトラック輸送	132	
流通の合理化	宅配便の登場	
四 交通事故対策と今後の交通体系	133	
交通事故の増加	交通体系の見直し	
第三章 発展する通信		
第一節 近代化へ	137	
一 郵便事始め	137	

郵便事業発足	上田郵便取扱所	上田郵便局の海野町へ移転	郵便貯金
電信の敷設と利用	電信の敷設	テレグラフ	電信の利用
均一料金制	電報配達区域		
電話の敷設	官営か民営か	県下へも電話が	電話開通
第二節	新しいメディア		
普及する新聞・ラジオ	新聞が情報源	新聞発行	新しいタイプの新聞
ラジオの登場	郵便事業の発展	低迷する電信	
第三節	戦時下の通信		
防空と通信	言論統制の強化	電話・電報の使用制限	最優先の防空通信
戦争とラジオ	第四節	戦後から経済成長期	
郵便事業	インフレの中の郵便事業	郵便・小包郵便の推移	
電気通信事業	電信の利用	電話の利用と新しい需要	日本電信電話公社の誕生
通信事業の新しい展開	新規加入者に負担を求める	公衆電話	農村に電話を
有線放送電話	全国に即時通話		

四	ラジオからテレビ時代へ……………	158
	二十年代のラジオ普及率	民間放送の開局
		ラジオからテレビへ
		県下のテレビ局および普及状況
第五節	高度情報化社会……………	161
一	高度化する通信・情報……………	161
	IT革命の前夜	IT革命
二	ITの利用……………	162
	人や物の流通で積極的に利用	IT利用の優等生コンビニ
		IT依存を高めるスーパー
	農産物の出荷も	製造業では
		郵便事業でも進むIT化
		学校でのパソコン利用
三	次世代を担う若者たち……………	167
	携帯電話の利用	一般家庭でのパソコン普及
		学校でのコンピューター
		技術を高めている生徒
四	IT社会の課題……………	170
	デジタルデバイド	人間性豊かなIT社会に
第四章	多様化する観光……………	
第一節	観光の夜明け……………	173
一	長野県有数の別所温泉……………	173
	明治初期の別所温泉	県下の先進温泉地
		別所温泉の由来
二	別所温泉のご一新……………	175
	藩政からの脱却でのびのび	文明開化の波
		信越線の開通
		明るい雰囲気になった温泉街
	温泉旅籠の繁栄と村のリーダー	

三	ご一新と上田町……………	177
	押し寄せる維新の波	
	上田城払い下げ	
	花街の成長	
四	増える汽車の旅……………	179
	汽車に奪われた旅人や物流	
	小さな旅を楽しむ	
	明治初期上田周辺の名所旧跡	
第二節	観光地への発進……………	181
一	温泉地の買い上げ……………	181
	温泉地購入の照会文書	
	村議会で温泉地買い上げを決議	
	温泉地買い上げに向けての金策	
二	温泉地づくり……………	183
	温泉使用条例を決議	
	温泉改修費の備蓄	
	内湯化の展開	
三	不況の波を乗り越えて……………	185
	温泉利用客の大減少	
	官民一体の提携	
	別所温泉協会の動き	
四	戦時中の別所温泉……………	187
	温泉地質調査に着手	
	学童疎開で埋まる温泉街	
五	上田城下の観光……………	188
	荒れ放題の上田城跡	
	街にみなぎる活力	
	八日堂縁日	
第三節	戦後の観光……………	190
一	観光別所への脱皮……………	190
	ボーリングのゴーサイン	
	別所温泉の掘削	
	宣伝活動と温泉祭り	
	温泉街の整備	
二	信州の鎌倉・塩田平……………	194
	塩田町観光協会の誕生	
	観光開発に寄せる助言	
	信州の鎌倉・塩田平	
	新しいものと古いものと	
三	上田城下の整備……………	198

上田観光協会の再発足	上信越高原国立公園の指定	上田公園の整備	城下町の整備点描
観光の目玉は真田様 ^{さなだ}	尼ヶ淵一帯の公園整備		
四 上田郊外の観光	信濃国分寺史跡公園	ささらの湯	つけば
	市民の森	別所森林公園	太郎山
第四節 上田の観光の展望			

一 観光産業の位置づけ	商工業と共に	進む通過型観光地	温泉と名所旧跡にたよる上田
二 観光産業発展のかぎ	上田の観光地類型	文化型観光地へ	新時代に即応の観光基盤づくり

執筆分担	ご協力いただいた方々	参考文献	あとがき
	上田市誌の編さん組織		
	『上田市誌』全三二冊の編成と書名		

表紙	高速交通時代に入った上田	長野新幹線、しなの鉄道、上田・篠ノ井バイパスが走る（平成十五年）
裏表紙	上田市上空からみた上田城跡（平成九年	読売新聞社提供）

上田市誌 近現代編(4)

変わる人や物の流れ

発行 平成十五年十月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三二四一〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇